

1 宗教学とは何か - 新宗教論 -

1 - 1 . 近代日本の宗教動向

1 . 近代化（世俗化）と宗教離れ

多元的文化世界の成立（伝統解体と意味世界の流動化） 自由 = 負担

宗教の私事化 / 宗教の習俗化 / 宗教伝統の理解困難・無意味化

不安の時代：文化の基盤喪失、自己の流動化・故郷喪失

2 . 近代日本の宗教政策、宗教と習俗・習慣の分離

3 . 宗教回帰：新宗教流行の三つの時期

社会変動 意味世界の変動 新しい価値・意味への欲求

自己同一性の流動化

人間の生きる現実世界（= 意味世界）の根拠づけ、正当化（最終的な答え）

4 . 第一次宗教ブーム：江戸時代末～明治期

天理教、金光教、黒住教、大本教など

第二次宗教ブーム：第二次世界大戦後（1950年代）

創価学会、立正佼成会、霊友会、生長の家、PL教団など

第三次宗教ブーム：1970年代以降

統一協会、真光系の諸教団（崇教真光、世界救世教など）、GLA、

オウム真理教、幸福の科学など

1 - 2 . 第三次宗教ブームの特徴

< 宗教は社会・人間の鏡である >

5 . 入信動機の変化（宗教と欲望）

貧・病・争 本当の自分探し（ゲーム）、自己実現志向、自己啓発セミナー
日常性からのエスケープ ex) 超能力願望

現代人のストレスの増大・自己の危機

パニック（切れる）症候群

精神的な基礎体力の低下、権威に弱い

6 . 無境界化 多重化する宗教, 伝統的な宗教イメージでは把握できない広がり

宗教でないと主張する「宗教」

宗教か商売か？ 宗教か倫理か？

人間が神になる文化 cf. キリスト教と日本的宗教性との比較

7 . 小集団志向（小さな神々）

故郷喪失、安心できる場所（自分を受け入れてくれる居場所）の喪失

家庭・学校・地域社会の崩壊（人間関係の変質）

アット・ホームな人間関係への欲求

キャンパスの神々（サークスの宗教）、カルト集団

公共性の喪失（意味世界のアトム化）

8. 豊かな社会における現代人の不安（無意味性の不安）と、新しい宗教現象
 科学技術の両義性：豊かさ・便利＋危機
 レトリックとしての科学：ポストモダン＋レトロ
9. 倫理における伝統回帰
 女性と宗教
10. 情報化と宗教
 宗教のネット化（ネット・チャーチ、サイバー・チャーチ）
 ネット上の儀礼？ あるいは儀礼なしの宗教？
 日常性の変容：身体的現実性（対面状況）とヴァーチャルな現実性との混合
 本物の喪失・コピーの時代（現実感覚の希薄化）
 宗教的現実性とは何かが問題化する（霊とは？）

1 - 3 . 宗 教 研 究 の 課 題

宗教現象の動的な変化を理解するのに必要な宗教概念の形成 広義の宗教
 宗教現象を、機能・構造・プロセスから分析する モデルの形成
 宗教から人間を見る。宗教はなおも現代人にとって意味があるのか。
 伝統的な宗教、たとえばキリスト教は現代人の問いにどのように答えるのか。

<ブックガイド（新宗教関連）>

1. いのうせつこ 『新興宗教ブームと女性』（新論） 『主婦を魅了する宗教』（谷沢書店）
2. 西島建男 『新宗教の神々』（講談社現代新書）
3. NHK 世論調査部編 『現代日本人の意識調査』（NHKブックス）
4. 石井研士 『データブック 現代日本人の宗教』（新曜社）
5. 島蘭進 編 『何のための＜宗教＞か？ 現代宗教の抑圧と自由』（青弓社）
6. 竹下節子 『カルトか宗教か』（文春新書）
7. 沼田健哉 『宗教と科学のネオパラダイム - 新新宗教を中心として - 』（創元社）
 『現代日本の新宗教』（創元社）
8. 井門富二夫 『カルトの諸相 キリスト教の場合』（岩波書店）
9. 井上順孝 『若者と現代宗教 - 失われた座標軸』（ちくま新書）
10. ロバート・J・リフトン 『終末と救済の幻想 - オウム真理教とは何か - 』（岩波書店）
11. 村上重良 『日本宗教事典』（講談社学術文庫）
12. 井上順孝他編 『新宗教事典』（弘文堂）
13. 宗教情報リサーチセンター（<http://www.rirc.or.jp/>）